
はばたこう、昭和から世界へ！

- 地域から考える国際理解 -

昭和村立昭和中学校

主題 主体的に国際理解に努めようとする生徒の育成

- 全校態勢で取り組む英語教育及び国際理解教育を通して -

学校長 吉澤 博通 生徒数 242

学級数 10

執筆者 教諭 星野 文隆

住所 〒379-1206 利根郡昭和村椽久保488の1

電話 0278-23-7321

URL <http://www.gnm-showa-j.ed.jp/>



1 はじめに

本校は平成14年度より3年間、群馬県教育委員会より、英語教育研究開発調査研究委託事業の指定を受けた。そこで、他の国の歴史・自然・文化等を知り、そこに住む人々の生活やものの考え方などを理解しようとする生徒、日本の歴史・自然・文化等を知り、日本人の生活やものの考え方について自分なりの考えをもっている生徒、他の国の人に対し、相手の意向を理解したり、自分の考えを伝えたりできるコミュニケーション能力、特に「世界の公用語」といわれる英語による実践的コミュニケーション能力を身に付けようとしている生徒の育成をめざし、全校態勢で研究を推進した。その中で、「主体的に国際理解に努めようとする生徒」の育成をめざす3つの柱を以下のように設定した。

- 1 外国語科における授業の改善・充実
- 2 英語教育にかかる環境の改善
- 3 国際理解教育の推進

今回は、そのうちの「2 英語教育にかかる環境の改善」と「3 国際理解教育の推進」についての実践を紹介する。

2 実践の概要

(1) ねらい

全教育活動において、他国や自国の歴史・文化・自然等を理解するとともに、英語によるコミュニケーション能力を養い、相手の意向を理解したり、自分の考えを伝えたりできる生徒を育成するための、全校態勢で取り組む、英語教育や国際理解教育の在り方を実践的に追究する。

(2) 英語教育にかかる環境の改善について
日常的に英語に接する場の設定を工夫すれば、英語に慣れ親しむ意欲や態度が生徒に育成されるであろうと考えた。

ア 英語集会の企画・運営

水曜日の朝行事として英語集会を行った。16年度は教師、生徒会本部役員、専門委員会による取組の3種類の取組を行った。

教師による取組

- ・ 日本とグアテマラの文化や風習の違いに視点をあてた講話。
- ・ インド、メキシコ、ドイツ、イタリア、日本の食事の違いやマナーについてのクイズ。試食会も行う。
- ・ アメリカの独立記念日の様子や世界各国の独立記念日の紹介について、等。

本部役員による取組

- ・ JRCの説明について（5月） アンリーデユナンとJRC関係や設立の目的などについて寸劇風にまとめ発表した。他の教師に配役をお願いするなど1年生にも分かってもらえるようにしていた。
- ・ 環境問題（6月） 世界環境デーに関連し自分たちの身のまわりで起こっている環境破壊について本部役員が興味をもったところを分担し、発表した。
- ・ イーグルポイント（7月） 夏休み中に海外派遣事業（ホームステイ）に参加する生徒に見たいこと、話したいことなど各自の訪問の目的を発表してもらい、全校生徒に紹介した。

専門委員会による取組

- ・ 放送委員会 世界の国歌について
- ・ 生活委員会 海外の中学生の生活の紹介
- ・ 体育委員会 世界のレクリエーション（カバディ体験）、等。

イ グローバルルームの充実

教室の一つを「グローバルルーム」と名づけ、全校生徒に開放している。毎日、昼休みにALTとゲームをしながら英会話を楽しむ場として、また、国際理解に関する情報を提供する場として、あるいは、イベントの開催の場として活用している。

外国語を聞く機会の提供

- ・ 英語のVTRやDVDの視聴
 - ・ 英語の歌の紹介
 - ・ 英語によるミニコンサートの開催
- #### リーバイコーナー（ALTコーナー）の設置
- ・ ALTのリーバイ先生やトーマス先生とオセロやチェスなどのゲームをしたり、ALTと自由に接したりして気軽に英会話ができるようソファやテーブルを設置した学習コーナーの設置
 - ・ 机と椅子や図書を設置し、英語を書く学習や調べ学習ができるスペースを提供したホームステイに関する情報提供

- ・ ホームステイの事前学習に関する展示
- ・ 過去のホームステイの写真の展示
- ・ ホームステイに関する図書の設置
- ・ 外国語で歌う機会の提供
- ・ グローバル合唱団を募集し、ドイツ語で「第九」の合唱



「いいなあ。ホームステイって楽しそうだね。」

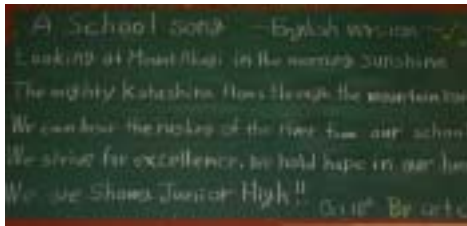


民族衣装着付け教室の実施

- ・ 展示していたインドの民族衣装である「サリー」の着付けを学ぶ
- ・ 教科等の学習の発表
- ・ 生徒が作った短歌や俳句を英訳し展示
- ・ 生徒の習字の展示（イーグルポイントの中学校の教師の習字も展示）



- ・ 昭和中校歌の英訳の展示



イーグルポイントへの紹介のために文化部が作成

- ・ 世界情勢に関する新刊書の紹介と感想の展示

教師の海外体験の写真の展示

- ・ 昭和中の先生方の海外体験（研修・日本人学校・留学等）の写真の展示

クリスマスカードの展示

- ・ 外国の友達に送るクリスマスカードの展示



生徒の作ったクリスマスカード

毎月国際理解に関する特集企画の展示

- ・ 例：4月「イースター特集」英語集会と連携して展示

世界の食事の紹介

- ・ 英語集会と連携して世界の食事（料理）を紹介し、試食会を実施



- 「グローバルルームニュース」の発行
- ・ 月に一度グローバルルームの広報のために新聞形式のニュースを発行



ウ 英語広報の企画・運営

英語放送、グローバルルーム以外の場所における国際理解に関する掲示板の運営を行っている。

英語放送

- ・ 英語版メニューの作成・・・給食委員会の生徒が毎日メニューの一覧表を作成
- ・ 給食時間の放送・・・A L Tによるその日のメニュー紹介と英語音楽放送

Hi, everyone. It is July 16th.
Today's lunch is sliced bread, fried fish with tartar sauce, vegetable soup and radish salad. The dessert will be fruit jelly. It's Wednesday.

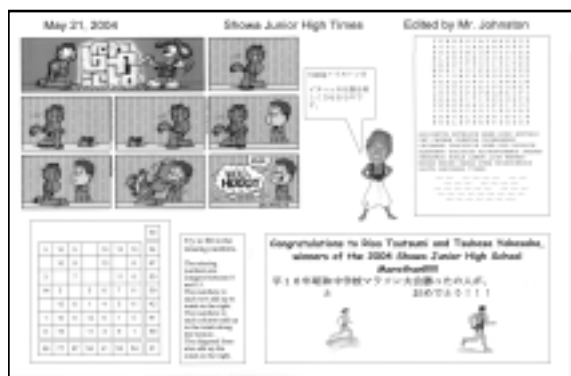
Please come to the global room.

(原稿例)

- ・ 「第九」のミニコンサートに先駆けて、清掃や下校時間にドイツ語の合唱を放送
- ・ グローバルスペース・・・世界中のニュースや情報を自分たちで探して掲載できるスペースを生徒玄関正面に設置

エ 英語新聞の企画・運営

A L Tが毎月、英語新聞「Showa Junior High School times」を発行した。内容はスポーツ、音楽、外国の出来事や、英語の授業での生徒作品の紹介、クイズなどを取り上げた。



オ 実践の成果と課題

英語教育にかかる環境の改善を図ることによって、英語や外国に関する興味や関心を高められることが明らかになった。英語集会、グローバルルーム、英語広報などの活動において、生徒を活躍させたり、実際に体験させる場を設定したりすることにより、英語の授業以外で生の英語や外国の文

化・歴史などの情報を耳で聴いたり、目で見たり、口で味わったり、手で触ったりし、より多くの生徒が目の世界に向けるようになった。

課題としては、各学年の生徒の英語力や発達段階の実態に合わせた学年別の取組の工夫が必要である。1年生と3年生の英語力の差などをより考慮した放送や英語新聞の発行などに検討が必要である。また、グローバルルームの掲示物作成などはさらに、教師主体から生徒主体に移行していく必要がある。

(3) 国際理解教育の推進について

ア 外国語科以外の各教科における国際理解教育の推進

国際理解教育関連一覧表(下表参照)を作成したり、単元別指導計画に「国際理解教育との関連」を明記したりして、各教科において実践的に国際理解教育を推進した。また、全教師が国際理解教育にかかわる授業公開を行い研究を深めてきた。

国際理解教育関連一覧表

各学年の各月で国際理解教育が各教科でどのように行われているかを一覧表にした。

(一部抜粋)

第3学年 国際理解教育関連一覧表(5月)

教科	題材名	関連の視点
国語	俳句の世界	世界の中で「ハイク」として親しまれていることを紹介し、言語文化としての「ハイク」に関心をもたせる。
社会	人権の尊重	人権の歴史から欧米での市民革命が日本の憲法にも影響を与えていたことをつかむ。
数学	平方根	記号の起源を紹介する。
理科	生物の細胞とふえ方	発展的な学習としてメンデルの遺伝の法則について取り上げる。
美術	鑑賞	自分が興味をもった国の生活文化史について調べ、発表する。
技・家	「子どもの成長」	自国の幼児の平均体重・身長などについて理解し、アメリカやイギリスなど他国の子どものデータを見て、体型の違いについても知る。

イ 道徳における国際理解教育の推進

国際理解教育の推進に向けて、自国・自文化理解、異国・異文化理解を深めるために、内容項目4-(10)(国際理解と平和、人類愛)を重点的に各学年で実践する。それにより、国際社会の一員としての自覚と責任をもって、国際社会に寄与しようとする態度の育成をめざした。

ウ 特別活動における国際理解教育の推進 イーグルポイントとの交流活動



昭和村では、8年前から中学生の海外派遣事業を行っている。毎年12名の生徒が派遣され、英語学習、異国・異文化理解や国際交流を目的とし、アメリカ合衆国オレゴン州イーグルポイントでホームステイをしたり、サンフランシスコ見学をしたりしている。また、2年に1度、イーグルポイントより中学生が来校している。

この海外派遣事業と本校で取り組んでいる国際理解教育を関連付けて、一昨年度は、本校において交流会を行った。そこでは、全校生徒による英語の歌合唱、柔道部、剣道部による模範演技、授業交流などを行った。また、イーグルポイントの中学生に英語の手紙を送り、交流を図った。

昨年度は、新たな取組として、1年生から3年生が英語で自己紹介をしたり、日本や昭和村の生活、文化、伝統等を英語で紹介したりする作品を作り、それらを海外派遣される生徒に持って行ってもらい、交流を深めた。

文化祭

自国文化理解及び異国文化理解の体験講座として、それぞれ地域の方を講師に招いて以

下のような講座を開設した。昨年度は、一昨年度の反省から体験時間を少しでも長く取れるようにし、2時間半程度の体験活動を行った。どの講座もしっかりした体験ができるよう、希望調査をとった上で人数調整をした。

体験講座一覧

- ・フィリピン料理 ・茶道 ・華道 ・将棋
- ・竹細工 ・八木節お囃子 ・正月飾り
- ・ちぎり絵 ・切り絵 ・手芸 ・日本舞踊
- ・大正琴 ・英会話 ・環境セミナー
- ・こんにやく作り ・書道 ・美術 ・囲碁
- ・お手玉 ・中国文化 ・ロシア文化



エ 総合的な学習の時間における国際理解教育の推進

平成16年度は各学年ともすべての時間(1年生75時間、2・3年生70時間)を国際理解教育にあてることとした。そして、大テーマを「昭和村から考える国際理解」とし、内容を総合(個人で取り組む国際理解)総合(学校全体・学年一斉に取り組む国際理解)に分け、学年の継続性や行事との関連を図りながら国際理解教育に取り組むこととした。

総合

大テーマのもと、個人でテーマを設定し解決に取り組む「国際理解」である。大テーマを「昭和村から考える国際理解」として全校で取り組むこととしたのは、「国際理解教育を推進するための基盤は地域にある」と考えたからである。まずは自分の地域を知り、他の地域と比較し、さらに対象を広げ他の国と比較していく。そうすることにより、異国や異文化理解を深め、思いやりをもって他の人や国とともに生きていこうとする態度を育てることができると思ったからである。

『総合』の各学年のねらいは以下のとおりである。

・ 1年「昭和村を知ろう」

身近な地域である昭和村について詳しく調べ、自分が生活する地域のよさや課題について理解し、人や地域を大切に思いやりをもって生きていこうとする。（地域・地域文化理解、自国・自文化理解、日本人としての自己の確立の基礎づくり）

・ 2年「昭和村と他の地域を比較しよう」

他の地域の人々の生き方や文化について詳しく調べ、昭和村と比較することで自国の文化や歴史・生活などについて理解し、日本人としての誇りを持って生きていこうとする。（自国・自文化理解、日本人としての自己の確立）

・ 3年「昭和村と世界を比較しよう」

他の国の人々の生き方や文化について詳しく調べ、昭和村及び日本と比較することで他国の文化や歴史・生活などについて理解し、思いやりをもってともに生きていこうとする。（異国・異文化理解、日本人としての自己の確立）

総合

『総合』は「学校全体・学年一斉に取り組む国際理解」とした。中心となる活動は国際理解に関する講演会である。地域理解からスタートし、自国文化理解、異国文化理解へと段階的に内容を変えていった。



講演会の様子

オ 生徒の変容

国際理解にかかわる授業を繰り返すことにより、自国・自文化について理解する生徒や

他国に目を向ける生徒は確実に増えている。特に総合的な学習の時間に対する授業の取組や、英語集会への取組、文化祭における体験講座への取組などは年を追うごとに積極的な取組になっている。

たとえば、総合的な学習の時間では、国際理解にかかわる講演会から課題を設定したり、進んでいる人から情報を得ようとしてアンケートやインタビュー、電話での聞き取りなどを行ったりしている。また、英語集会では、回を重ねるごとに工夫した内容になったり、自信をもって発表できるようになったりしている。文化祭の体験講座でも地域のお年寄りや外国の人に積極的にかかわろうとする態度が見られた。

3 おわりに

本校では全校態勢で英語教育及び国際理解教育に取り組もうと考え研究を行ってきた。

その結果、生徒は確実に英語を使用するようになってきている。英語の授業改善や英語環境にかかる学校環境整備の充実が図られたことから、英語を話すことに対する抵抗がなくなってきたと考えられる。生徒の間で英語が日常化してきていると感じられる。

また、生徒が主体的に国際理解教育の活動にかかわるようになってきた。英語集会の企画・運営、英語放送の内容など、生徒が前面に出た活動が多く行われるようになった。

さらに、国際理解に関する地域のネットワークの拡大がみられた。文化祭の体験講座や国際理解にかかわる講演会の講師として、多数の地域の方々に協力をいただいた。その後の総合的な学習の時間などの学習として、後日、講師の方にインタビューする生徒もいた。また、専門的な知識をもつ方を紹介していただくこともあった。国際理解教育にかかわって、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の指導の工夫・改善を通して、人材だけではなく昭和村という地域そのものが国際理解のフィールドであるというイメージを、教師・生徒とももてるようになった。

今後、地域を基盤に世界に目を向ける活動を継続していきたい。